

北方資料室資料展示

生誕100年

佐藤忠良の

世界

展示目録



展示期間

平成24年4月3日(火)～6月28日(木)

今年、彫刻家・佐藤忠良(1912-2011)の生誕100年に当たります。佐藤忠良は宮城県に生まれ、少年期を夕張、札幌で過ごしました。道内には忠良の彫刻作品が多数あり、道民にもなじみ深い作家と言えるでしょう。

本展示では、彫刻家としての顔の他、福音館の絵本「おおきなかぶ」の挿絵でも知られる画家としての側面や交友関係などを、資料を通して紹介します。

<コーナー1>

北海道での少年期と札幌二中中学校が結んだ交友関係

1912年(明治45)宮城県に生まれた佐藤忠良は、父の死により、1919年(大正8)母の実家の移住先である夕張町に移ります。夕張第一尋常小学校を卒業した忠良は、1925年(大正14)札幌第二中学校(現在の札幌西高等学校)に入学し、そこで後に小説家となる船山馨※1や、作曲家となる伊福部昭※2らと出会います。また中学校の先輩には同じ彫刻家の山内壮夫※3や本郷新※4がおり、作品の共同制作を行ったりしています。

※1) 船山馨(ふなやま かおる 1914~1981) 小説家。札幌生まれ。代表作に「石狩平野」、「お登勢」、「茜いろの坂」等。

※2) 伊福部昭(いふくべ あきら 1914~2006) 作曲家。釧路生まれ。「ゴジラ」の作曲等で知られ、東京音楽大学学長も務めた。

※3) 山内壮夫(やまのうち たけお 1907~1975) 彫刻家。岩見沢生まれ。国画会、新制作派協会を舞台に作品を発表。

※4) 本郷新(ほんごう しん 1905~1980) 彫刻家。札幌生まれ。日本を代表する彫刻家として活躍。本道彫刻界にも貢献した。

(展示資料リスト)

	資料名	著者名	出版者	出版年	請求記号
1	私のなかの歴史 5	北海道新聞社 // 編	北海道新聞社	1985.5	281.08/W/5
2	輔仁	輔仁会 // 編	輔仁会	1973	374.6/HO
3	わが北海道 2巻9号		東京文化センター北海道 PR センター	1971	
4	わが北海道 3巻10号		東京文化センター北海道 PR センター	1971	
5	創立十周年記念絵葉書		北海道庁立札幌第二中学校	1922	エハ/561/キョウ-21
6	孤客	川西 政明 // 著	北海道新聞社	1982.8	910.268/F
7	船山馨	北海道文学館 // 編	北海道新聞社	1996.5	910.268/F
8	石狩平野	船山馨 // 著	河出書房	1967	F/F/1
9	石狩平野 続	船山馨 // 著	河出書房	1968	F/F/2
10	伊福部昭・音楽家の誕生	木部 与巴仁 // 著	新潮社	1997.4	289/I
11	伊福部昭の宇宙	富樫 康 // [[ほか]著	音楽之友社	1992.5	289/I
12	本郷新の仲間達展		札幌彫刻美術館	1984	710.6/SA
13	山内壮夫遺作展	旭川郷土博物館 // 編	旭川郷土博物館	1983	710.8/A

<コーナー2>

佐藤忠良の仕事 〈さし絵〉

佐藤忠良というと、彫刻家というイメージが強いですが、さし絵も多く手掛けています。

絵本のさし絵の仕事で最も有名なのは、ロングセラー『おおきなかぶ』（福音館書店 1962年）ではないでしょうか。お話自体もポピュラーですが、「絵本で読んだのはこの絵！」という人も多いはずです。

(展示資料リスト)

	資料名	著者名	出版者	出版年	請求記号
14	原野にとぶ橇	加藤 多一 // 著	偕成社	1979	J913.8/KA
15	父母の原野	更科 源蔵 // 著	偕成社	1983	J913.8/SA
16	移住者の原野	更科 源蔵 // 著	偕成社	1986.6	J913.8/SA
17	おさない原野	更科 源蔵 // 著	偕成社	1984.1	J913.8/SA
18	少年たちの原野	更科 源蔵 // 著	偕成社	1984.10	J913.8/SA
19	小さな町の風景	杉 みき子 // 著	偕成社	1982.9	J913.8/SU
20	木	木島 始 // 文	福音館書店	2005.7	J913.8/SA
21	おおきなかぶ	内田/莉莎子 // 再話	福音館書店	1966.6	E/SA

<コーナー3>

佐藤忠良の仕事 〈彫刻〉

1932年(昭和7)秋、絵描きになることを決心して東京へ出た忠良は、前年に上京していた船山馨の下宿に同居しながら画学校に通いますが、絵画にゆきづまりを感じ、しだいに彫刻家をめざすようになります。

1934年(昭和9)東京美術学校(現東京芸術大学)彫刻科に入学し、同級だった船越保武らと貸アトリエでの共同生活を始めた忠良は、国画会や新制作派協会等に参加し、精力的に彫刻制作を行います。戦後は東京造形大学で教鞭をとる傍ら創作活動を行い、数々の賞を受賞するとともに、パリで個展を開くなど国際的にも高い評価を受けました。

道内にも忠良の作品が多数あり、美術館だけでなく、公園内や銀行、ホテルの壁面に見ることができます。

(展示資料リスト)

	資料名	著者名	出版者	出版年	請求記号
22	北海道新庁舎のレリーフに関する資料			[1967]	711.8/HO
23	佐藤忠良のすべて巡回展		[出版者不明]	[198-]	Eハ/サツ/91

<コーナー4>

佐藤忠良の作品を観に行く

<佐藤忠良の作品を常設している施設>

・佐藤忠良記念子どもアトリエ(札幌芸術の森野外美術館内)

所在地:札幌市南区芸術の森2丁目75

TEL:011-592-4123

開館時間:9時45分～17時

休館日:4月29日～11月3日は無休、11月4日～4月28日は月曜日

・宮城県美術館 佐藤忠良記念館

所在地:宮城県仙台市青葉区川内元支倉34-1

TEL:022-221-2111

開館時間:9時30分～17時

休館日:月曜日(ただし、祝日に当たる場合は開館し、翌日休館)

・まほろばホール 佐藤忠良ギャラリー

所在地:宮城県黒川郡大和町吉岡南2丁目4-14

TEL:022-344-4401

開館時間:9時30分～16時30分

休館日:第1・第3火曜日

・佐川美術館 佐藤忠良館

所在地:滋賀県守山市水保町北川2891

電話:077-585-7800

開館時間:9時30分～17時

休館日:月曜日(ただし、祝日に当たる場合は開館し、翌日休館)

※開館時間・休館日は各館のホームページから情報を得ていますが、変更になることもありますので、ご来場の際は事前にご確認ください。

(展示資料リスト)

	資料名	著者名	出版者	出版年	請求記号
24	佐藤忠良記念子どもアトリエ	札幌芸術の森美術館// 編	札幌市	2008.9	710.8/SA
25	札幌芸術の森		[出版者不明]	1986.7	エハ/561/カン-62

<道内の佐藤忠良作品が見られる主な場所>

『さっぽろ文庫 21』(北海道新聞社 1982)、『旭川叢書 25』(旭川振興公社 1999)、『季刊銀花 106』(文化出版局 1996)を基に作成しているため、現在と情報が違っている場合があります。ご了承ください。

・札幌市

作品名	設置(年)	所在地
開拓母の像	1963	中央区大通西4丁目 北海道銀行本店1階ロビー
大地(合作)	1964	中央区大通西4丁目 北海道銀行本店1階ロビー
二才のりゅう	1972	中央区大通西4丁目 北海道銀行本店1階ロビー
「島本融」胸像	1972	中央区大通西4丁目 北海道銀行本店4階
道民ホール・レリーフ	1968	中央区北3条西6丁目 北海道庁1階道民ホール
南鷹次郎	1942(制作)	中央区北4条西1丁目 ホクレンビル1階ロビー
雪娘	1971	南区真駒内五輪小橋 東端北側
えぞ鹿	1971	南区真駒内五輪小橋 東端南側
牛と少年(真駒内種畜場跡碑)	1964	南区真駒内曙町1 真駒内第1公園内
蒼穹	1977	中央区宮の森4の8 札幌西高等学校構内
岩村通俊像	1967	中央区宮ヶ丘 円山公園北側
大野精七博士顕彰碑	1982	中央区宮の森 大倉山ジャンプ競技場内

・旭川市

作品名	設置(年)	所在地
若い女・夏	1976	1条買物公園 西武A館前
若い女	1972	2条買物公園 マルカツ前
帽子・立像	1993	神楽3条7丁目 大雪クリスタルホール内
亜古	1989	東光9条4丁目 旭川信用金庫東光支店
北海道伝統美術工芸村彫刻群	—	南が丘3丁目

・釧路市

作品名	設置(年)	所在地
夏	1977	北大通 幣舞橋

・砂川市

作品名	設置(年)	所在地
小さな羊	1978	北光 砂川少年自然の家

(展示資料リスト)

	資料名	著者名	出版者	出版年	請求記号
26	さっぽろ文庫 21	札幌市教育委員会 // 編	北海道新聞社	1982	081.2/SA/21
27	旭川叢書 25	旭川市中央図書館 // 編	旭川振興公社	1999.3	081.2/A/25
28	札幌散策 2010	芸術の森美術館 // 監修	札幌市芸術文化財団	2010.3	710.8/SA/H22

<コーナー5>

作品集、図録など

	資料名	著者名	出版者	出版年	請求記号
29	つぶれた帽子	佐藤/忠良 // 著	中央公論新社	2011.8	289/SA
30	彫刻家佐藤忠良	市瀬見 // 著	一光社	1985.5	289/SA
31	佐藤忠良彫刻の顔、人の顔・特集		文化出版局	1996.6	289/SA
32	子どもたちが危ない	佐藤忠良 // 著	岩波書店	1985.2	370.4/SA
33	佐藤忠良のすべて	「佐藤忠良のすべて」展カタログ編集委員会 // 編	空間造形コンサルタント	1990	706.9/SA
34	彫刻・佐藤忠良展	佐藤忠良展実行委員会 // 編	現代彫刻センター	1975	706.9/SA
35	所蔵作品目録 佐藤忠良コレクション	佐藤 忠良 // [作]	宮城県美術館	1991	706.9/SH
36	佐藤忠良作品集 大きな帽子	佐藤 忠良 // 著	現代美術社	1978	710.8/SA
37	佐藤忠良	佐藤 忠良 // 著	講談社	2008.3	715/SA
38	アトリエの中から	佐藤 忠良 // 著	東京印書館	1980	725/SA
39	子どもたちが危ない	佐藤忠良 // 著	岩波書店	1985.2	370.4/SA
40	佐藤忠良「彫刻の世界」出版案内		[札幌テレビ放送]	[1990]	P712.8/SA

佐藤忠良年譜

『つぶれた帽子 佐藤忠良自伝』(中公文庫 2011 年)をもとに作成

年号	年齢	事項	参考事項
1912年(明治45)		7月4日、農学校教師の父・忠四郎、母・幸の長男として、宮城県黒川郡落合村舞野(現在の和町)に生まれる。	明治天皇崩御。大正と改元。
1916年(大正5)	4	弟・忠行生まれる。	
1918年(大正8)	6	12月、父・忠四郎没。	第一次世界大戦終結。
1919年(大正9)	7	母の実家の移住先である北海道夕張市に移る。 4月、夕張第一尋常高等小学校に入学。	
1925年(大正14)	13	4月、札幌第二中学校(現札幌西高校)に入学。 在学中は水泳部に所属したが、1学年下で後に小説家となる船山馨や作曲家となる伊福部昭らと絵画部を結成し、水彩画を描き始める。	治安維持法公布。
1930年(昭和5)	18	北大農学部を受験するが途中で試験を放棄。 3月、札幌第二中学校を卒業。 この頃から油彩画を独学で描き始める。	
1931年(昭和6)	19	9月、北海道美術協会展(道展)に油彩画が入選。	満州事変。
1932年(昭和7)	20	北樹社展での受賞を機に、本格的に絵画を勉強するために上京。前年に上京していた船山馨の下宿に同居し、川端画学校に通う。	5・15事件
1933年(昭和8)	21	絵画に行き詰まりを感じていたとき、美術雑誌でブルデル、マイヨール、デスピオなどの作品に触れ、しだいに彫刻家を志す。	
1934年(昭和9)	22	4月、東京美術学校(現在の東京藝術大学)彫刻科塑像部に入学。	
1937年(昭和12)	25	4月、上級生の柳原義達の誘いで第12回国画展に出品し、国画会奨学賞を受賞する。国画会には、中学の先輩の本郷新、山内壮夫が所属しており、高村光太郎が会員として名を連ねていた。	廬溝橋事件、日中戦争へ。
1939年(昭和14)	27	1月、美校の仲間と開いていた研究会が思想問題で取り調べを受け、練馬警察署に留置される。 3月、東京美術学校卒業。 11月、国画会を退会した本郷、山内らと新制作派協会彫刻部創立に参加、会員となる。 この頃より、府立第十高等女学校、自由学園、文化学院で非常勤講師をつとめる。	第二次世界大戦開戦。

年号	年齢	事項	参考事項
1940年(昭和15)	28	4月、吉田照と結婚。世田谷区世田谷(現梅丘)に転居する。	
1941年(昭和16)	29	長男・達郎誕生。	太平洋戦争開戦。
1942年(昭和17)	30	初めての絵本『ウシワカフムラ』(金井信生堂)刊行。編著者は北海道出身の詩人吉田一穂で、以後、44年までにシリーズ4冊の挿絵を担当。	
1943年(昭和18)	31	長女・オリエ誕生。	
1944年(昭和19)	32	7月、召集を受け入隊。満州に渡り、ソ連国境近くの東寧に配属される。	学童疎開始まる。
1945年(昭和20)	33	終戦を知らず約1か月間逃避行ののちソ連軍に投降。3年間シベリア・イルクーツク州タイシェットの収容所に抑留される。	広島、長崎に原爆投下。終戦。
1948年(昭和23)	36	夏、舞鶴港に復員。家族がいた千葉に身を寄せるが、間もなく上京し世田谷の本郷新宅に単身寄宿する。この頃、桑沢洋子の招きで洋裁学校のデッサンの講師となる。	
1949年(昭和24)	37	渋谷区代々木上原に新居を構え、妻子と母が千葉から上京する。	
1951年(昭和26)	39	世田谷近辺在住の美術家による「白と黒の会」に加入。この頃、雑誌の挿絵や書籍の装丁画などを描く。	サンフランシスコ講和条約調印。
1952年(昭和27)	40	6月、平和のための美術展(平和美術展)の創設に参加する。	
1954年(昭和29)	42	4月、桑沢デザイン研究所創立とともに教員となる。	
1958年(昭和33)	46	2月、母・幸没。	
1959年(昭和34)	47	杉並区永福に転居。 絵本『やまなしもぎ』が福音館書店から出版される。以後『おおきなかぶ』(62年)『ゆきむすめ』(63年)など同書店との絵本の仕事が続く。	
1962年(昭和37)	50	10月、初個展となる、佐藤忠良個展(札幌大丸ギャラリー)を開催。	
1964年(昭和39)	52	札幌市北海道銀行本店にレリーフ《大地》を本郷新、山内壮夫と共同制作。	
1965年(昭和40)	53	7月、船山馨の新聞連載小説「石狩平野」(北海タイムス)の挿絵を担当。以後、「お登勢」「見知らぬ橋」「蘆火野」「茜いろの坂」など船山の連載小説の挿絵を描く。 8月、彫刻三人展—本郷新・山内壮夫・佐藤忠良(北海道銀行本店)。	

年号	年齢	事項	参考事項
1966年(昭和41)	54	4月、東京造形大学に美術科主任教授として迎えらる。	
1971年(昭和46)	59	初の作品集『彫刻＝佐藤忠良 1949－1971』(現代彫刻センター)を刊行。	
1972年(昭和47)	60	彫刻・佐藤忠良自選展(仙台藤崎デパートほか札幌、岡山を巡回)を開催。	札幌冬季オリンピック開催。 沖縄が返還される。
1974年(昭和49)	62	1月、第15回毎日芸術賞を受賞。 3月、昭和48年度芸術選奨文部大臣賞を受賞。	
1977年(昭和52)	65	1月、北海道新聞文化賞を受賞。 5月、釧路市幣舞橋に、本郷新、柳原義達、舟越保武と《道東の四季》を制作、設置。	
1986年(昭和61)	74	東京造形大学名誉教授となる。 11月、生誕地宮城県に全作品を寄贈することを表明する。	ソ連チェルノブイリ原発事故。
1989年(平成元)	77	1月、1988年度朝日賞を受賞。	昭和天皇崩御。平成と改元。
1990年(平成2)	78	6月、宮城県美術館に佐藤忠良記念館が開館する。	東西ドイツ統一。
1993年(平成5)	81	11月、佐藤忠良彫刻展(夕張市美術館)。	プロ・サッカーJリーグ発足。
1995年(平成7)	83	生誕地の宮城県大和町に佐藤忠良ギャラリーが開設される。	阪神・淡路大震災。 地下鉄サリン事件。
1996年(平成8)	84	6月、佐藤忠良－こどもの世界(旭川市彫刻美術館)。	アトランタ・オリンピック。
1997年(平成9)	85	6月、佐藤忠良母校展(札幌西校等学校輔仁会館)。	
2004年(平成16)	92	9月、土の手をやすめて－佐藤忠良のスケッチブック(北海道立釧路芸術館、北九州市立美術館、川村美術館に巡回)。	アテネ・オリンピック。
2010年(平成22)	98	4月、宮城県美術館所蔵・佐藤忠良展(川崎市立美術館ほか)開催。 12月、「ある造形家の足跡・佐藤忠良展」(世田谷美術館)開催。これが生前最後の個展となる。	
2011年(平成23)		3月30日午前8時16分、老衰のため杉並区永福のアトリエ敷地内の自室で没。	東日本大震災。

北方資料室所蔵資料展
生誕 100 年 佐藤忠良の世界

2012 年 4 月発行
編集 北海道立図書館北方資料室
発行 北海道立図書館
〒069-0834
江別市文京台東町 41 番地
TEL:011-386-8521
FAX:011-386-6906
<http://www.library.pref.hokkaido.jp/>